

第5節 南区

5-1 南区の概況と特性

1. 区域の概況

(1) 位置・地勢

〈位置〉

○南区は本市の南部に位置し、面積は約4,044haで全市の約27.0%を占めています。西は和泉市、東は大阪狭山市、東南は河内長野市に接しています。当区域は、ほぼ中央部をニュータウンをつなぐかたちで泉北高速鉄道が通り、泉ヶ丘駅周辺が地域拠点に位置づけられています。

〈地勢〉

○区域の南部は、河内長野市に続く標高100m以上の山麓地形、中央部は標高30～100mの丘陵地形で、石津川や和田川などが北西に向かって流れています。

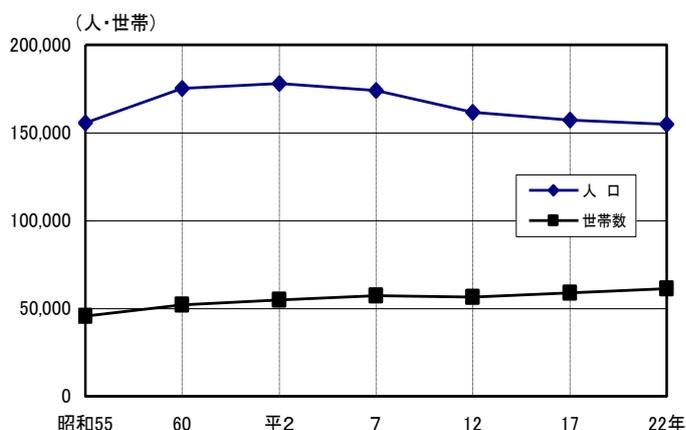
(2) 人口・世帯数

○南区の人口は、平成22年現在約15.5万人で、ニュータウンがまち開きされてから人口は平成2年まで増え続け、それをピークに減少傾向にあります。世帯数は、平成22年現在約6.1万世帯で、おおむね増加傾向にあります。一世帯当たりの平均世帯人員は2.54人で、全市平均を上まわっています。

[本市における位置図]



[人口・世帯数の推移グラフ]



[南区の人口・世帯数の推移]

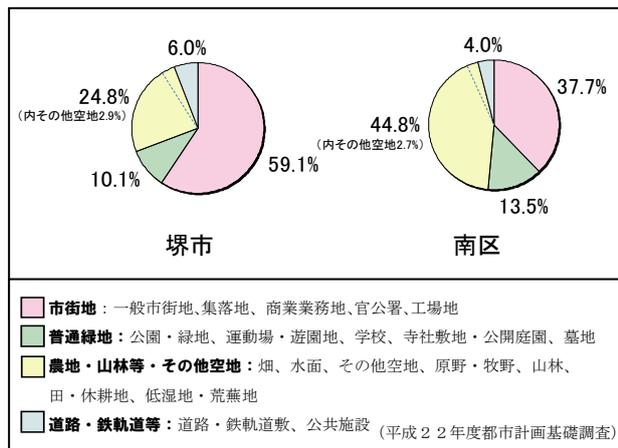
項目	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口(人)	155,421	175,336	177,803	173,970	161,443	157,099	154,779
増減率(%)	30.0	12.8	1.4	-2.2	-7.2	-2.7	-1.5
世帯数(世帯)	45,774	52,096	54,749	57,136	56,540	58,690	61,008
増減率(%)	25.2	13.8	5.1	4.4	-1.0	3.7	3.9
平均世帯人員(人)	3.40	3.37	3.25	3.04	2.86	2.68	2.54
全市平均(人)	3.23	3.18	3.03	2.85	2.68	2.57	2.44

資料：国勢調査

(3) 土地利用

○南区の土地利用は、市街地、普通緑地、道路・鉄軌道等の都市的土地利用の比率が55.2%と、7区のなかで最も低く、特に普通緑地の比率が13.5%と高くなっています。また、南部丘陵地を含む農地・山林等の比率は42.1%と、区域のおおむね半分を占めています。

[土地利用円グラフ]



(4) 都市計画施設

○道路

都市計画道路は、南北方向に下石津泉ヶ丘線、野々井美木多線、鳳檜尾線が、東西方向に檜尾上之線、檜尾岩室線、上之美木多上線が整備されています。津久野豊田線の一部に未整備の区間があります。

○鉄軌道

中百舌鳥駅～泉北ニュータウン～和泉中央駅（和泉市）をつなぐ泉北高速鉄道が走り、区域内に3駅があります。

※鉄軌道については、都市計画施設以外も含む

○自転車駐車場

泉北高速鉄道光明池駅駅前、同母・美木多駅駅前に計4ヶ所計画決定され、整備されています。

○都市公園・緑地など

荒山公園、鴨谷公園や南部丘陵地内の堺公園墓地、また、泉ヶ丘緑地をはじめ、49ヶ所が計画決定されており、これらすべてが開設され、対面積比では約91%が開設されています。これらのほとんどが泉北

ニュータウン開発により整備されています。

○公共下水道

南部丘陵地を除く区域が公共下水道の計画区域となっており、市街化区域の污水管整備はほぼ完了していますが、雨水排水施設は整備途上です。

○その他

堺市第二ごみ焼却場（クリーンセンター南工場）が立地しています。

(5) 市街地整備

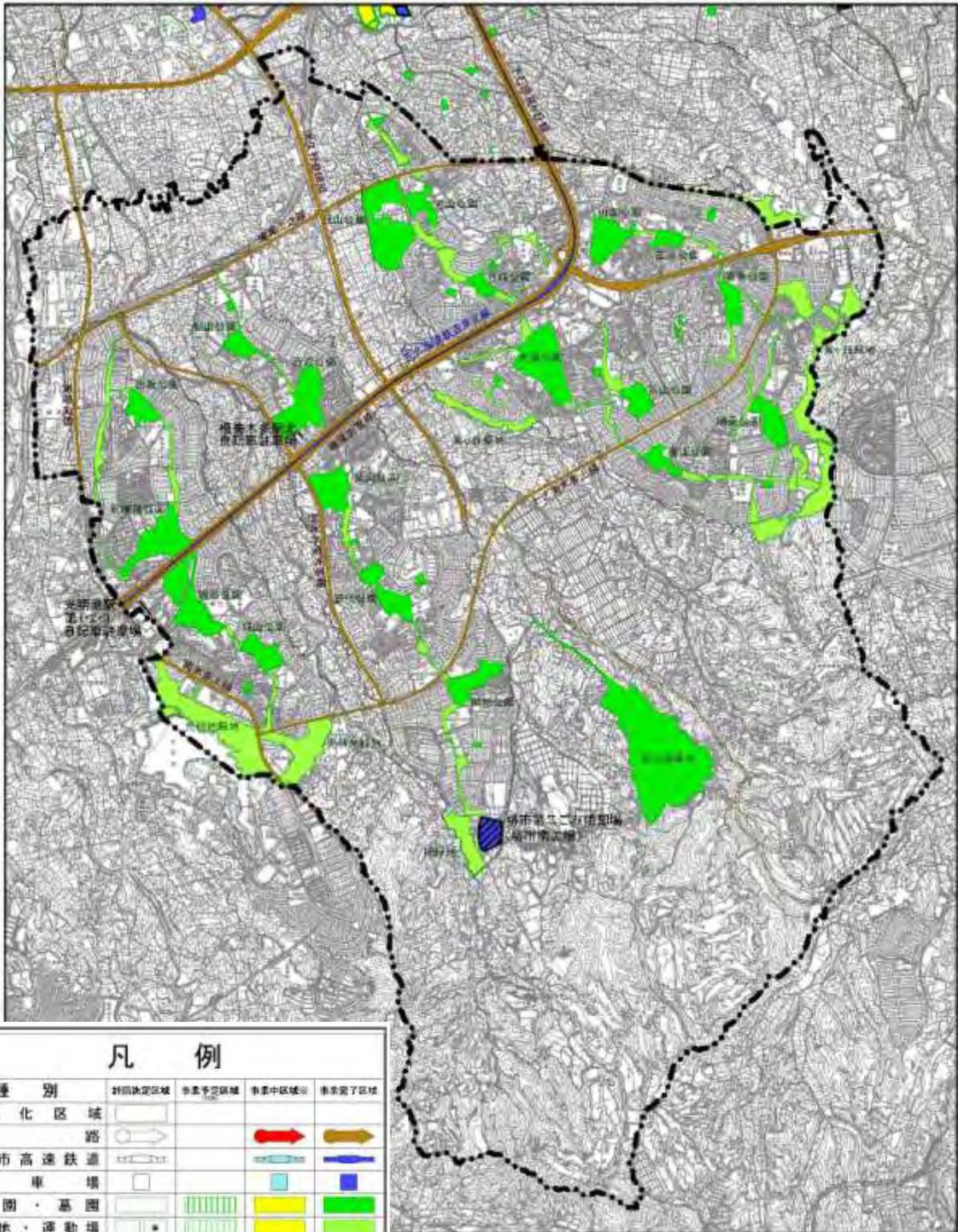
○南区は、昭和30年代に泉ヶ丘町、福泉町が本市に編入され、その一部で新住宅市街地開発事業により、昭和40年から昭和58年にかけて泉北ニュータウンとして開発されました。泉北ニュータウン以外の地域においても、一部で土地区画整理事業によりニュータウンと一体の市街地として整備されました。



[泉北ニュータウン]

[都市計画施設状況図]

(平成23年3月末現在)



種 別		計画決定区域	事業予定区域	事業中区域※	事業完了区域
市 街 化 区 域	道				
	都市高速鉄道				
都 市	駐 車 場				
	公園・墓園				
計 画	緑地・運動場				
	ポンプ場				
面 積	処理場				
	貯留池				
施 設	汚物処理場				
	ごみ焼却場				
学 校	火葬場				
	学 校				
一団地の住宅施設					

※各名称については、都市計画施設名称で表記しています。

※事業中区域とは、都市計画事業認可を受けている区域だけでなく、都市計画施設を事業している全ての区域を表しています。

2. 区域の特性

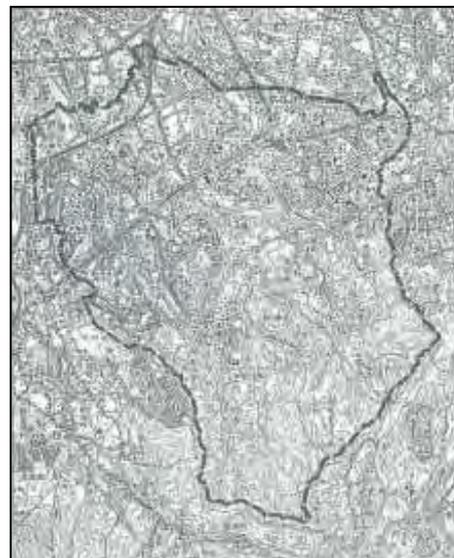
(1) 発展経過

- 南区は、古代には和泉国大鳥郡大村郷、上神郷、和田郷に属していました。
- 昭和34年に泉ヶ丘町、昭和36年に福泉町が本市に編入され、現在の南区域となりました。当時は区域の大部分が丘陵地で、区域北部から和田川、石津川が流れる谷あいにかけて農地が広がり、その中に集落地が点在していました。
- 昭和40年から約17年間をかけて、泉北丘陵新住宅市街地開発事業により泉北ニュータウンが整備され、昭和46年には泉北高速鉄道が泉ヶ丘駅まで、昭和52年には光明池駅までが開通しました。
- 平成5年に、阪和自動車道の堺インターチェンジ～岸和田和泉インターチェンジ間が開通しました。
- 近年、泉北ニュータウンでは、入居開始から40年以上が経過し、居住者の高齢化・人口減少対策や近隣センター機能の再編などの諸課題に対し、平成22年5月に「泉北ニュータウン再生指針」を策定するとともに、関係機関との連携を図りながら活性化に向けた取組みが進められつつあります。また、南部丘陵地では、全市的にも貴重な自然環境として、保全の必要性が以前にも増して高まっています。

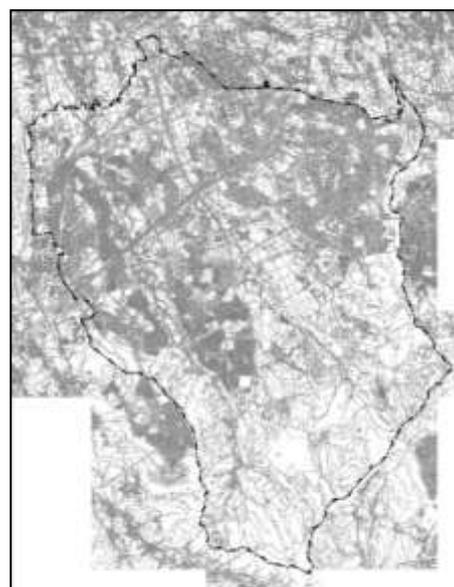
◆昭和37年頃の状況



◆平成7年頃の状況



◆平成21年頃の状況



1) 泉北ニュータウン

- 道路・公園などの都市基盤、住宅地・商業業務地が一体的に整備され、ゆとりある良質な戸建て住宅と公的住宅や日常生活の利便機能を担う駅前の地区センター、住区ごとの近隣センターが計画的に配置された良好な住宅地です。
- 入居開始から40年以上が経過し、社会環境の変化とともに人口が減少しています。開発当初に入居した世代は既に高齢期に入り、一定期間に入居された団塊の世代も一斉に高齢期を迎えます。これらの子ども世代の人口減少も顕著であり、今後、少子化・高齢化の進行が急速に進むことが予想されます。
- 都市基盤や公共施設、公的住宅の老朽化が進んできており、利用者・居住者ニーズに十分な対応ができていない状況となっています。
- 計画的に整備されたまちであり、新たな都市機能の導入や新たな土地利用を行いにくくなっています。
- 泉ヶ丘、梅・美木多、光明池の各駅を中心に3つのエリアで構成され、各エリアを南北に縦貫する緑地がニュータウン環境を特徴づけています。また、各駅前には地区センターとして地域の生活サービスの核となる商業・業務機能が集積しています。日常生活の利便機能を担う、計画的に配置された近隣センターでは商業機能は低下し、医療系などのサービス機能の立地が多くなっています。



[泉北ニュータウン]



[泉北ニュータウンの住宅地]

①泉ヶ丘エリア

- 泉ヶ丘地区センターは、広域的な商業施設や泉ヶ丘市民センター、大型児童館ビッグバンなどの公的施設が立地し、泉北ニュータウンの中核的センターとしての機能を有するとともに、鉄道、バス等の交通アクセスの結節点でもあり、地域拠点として位置づけられています。
- 8つの近隣センターが配置されています。このうち宮山台、若松台、茶山台近隣センターでは、核店舗が撤退しています。



[泉ヶ丘地区センター]

②梅・美木多エリア

- 梅地区センターでは、南区役所、梅文化会館、南図書館梅分館や南堺警察署などの行政・文化教育施設、商業施設などが立地しています。
- 敷物団地では、近年、商業・アミューズメント系施設などの立地がみられます。
- 4つの近隣センターが配置されています。このうち原山台近隣センターでは、核店舗が撤退し、戸建住宅への土地利用転換が見られます。

③光明池エリア

- 光明池地区センターは、和泉市側の隣接地と一体的に構成された商業・業務施設などが立地しています。
- 4つの近隣センターが配置されています。このうち、鴨谷台近隣センターは、店舗からマンションへの土地利用転換が見られます。

④生活サービスエリア

- 泉ヶ丘エリア、榎・美木多エリア間の檜尾岩室線側道沿道に、郵便、ガス、電気、バスなど南区の生活支援施設が立地し、ニュータウンのサービスヤードとしての機能を維持しています。また自動車販売店、飲食店、アミューズメント系施設などの新規立地もみられます。

2) 市街化調整区域

①田園集落地（泉北ニュータウン以北）

- 農地と大庭寺、小代、和田などの集落地が広がり、農地の多くは農業振興地域に指定されています。
- 津久野豊田線沿道では沿道サービス施設の立地が活発です。鳳檜尾線沿道の一部や堺インターチェンジ東側では新規の住宅立地がみられます。

②田園集落地（泉北ニュータウン間）

- 石津川、和田川流域の農地と集落地ではニュータウンと対照的な田園風景が特徴です。
- 石津川流域では、農地と大庭寺、三木閉、豊田、榎、片蔵の集落地が広がり、農地の多くは農業振興地域に指定されています。檜尾岩室線より北側の津久野豊田線沿道では沿道サービス施設が立地しており、新たな立地もみられます。また、上之美木多上線沿道では沿道サービス施設や住宅の新規立地がみられます。
- 和田川流域では、農地と野々井、大森、美木多上の集落地が広がっています。北端部の農地は農業振興地域に指定され、和田川右岸では4ha以上の集団農地が広がっています。一部、新規の住宅立地がみられま

す。



[集落とニュータウン遠望]

③南部丘陵地

- 農地やため池、樹林地などが一体となった自然環境に恵まれた地域です。豊かな自然環境や農空間を活用した堺自然ふれあいの森、ハーベストの丘、フォレストガーデンや民間企業によるゴルフ場が立地しています。農地・山林の多くが農業振興地域に指定され、特に、鉢ヶ峯地区、長峰地区のほか、場整備地区や酪農団地のほか、別所地区のみかん園など優良な農地が広がっています。
- 石津川上流の妙見川、法道寺川沿いに、釜室、富蔵・豊田、富蔵、逆瀬川、泉田中、鉢ヶ峯などの集落地が、和田川沿いには、美木多上、別所などの集落地が広がっています。
- 一部、住宅開発や上之美木多上線沿道の沿道サービス施設の立地がみられます。



[南部丘陵地]